

【福祉】 看護師不在施設における 医療連携加算を用いた医療的ケア児の受入れ

支援者

- ・児童発達支援事業所 さくらキッズ
- ・訪問看護事業所 LUNA



● 児の基本情報

名前・当時の年齢	S くん（1 歳 7 か月）
障害・疾病名	三尖弁閉鎖症、大動脈離断症、機能的単心室症
医療的ケア	在宅酸素療法

● 支援の背景や目的

- ・保護者の仕事復帰。保育所での受入が困難であった。
- ・児童発達支援事業所 さくらキッズで対応することとなる。
- ・さくらキッズに看護師配置がないため、訪問看護事業所 LUNA に依頼し、医療連携を開始した。

● 支援目的・支援の内容等

	さくらキッズ	訪問看護事業所 LUNA
支援の目的	・ S くんの日中の安心できる居場所づくり ・ 保護者の労働の確保	・ さくらキッズに看護師配置がないため、酸素機器管理、利用時の体調観察。 ・ 体調不良時の相談、対応。
支援内容	本児が安心していられる居場所になるよう、訪問看護をいれた	バイタルチェック、酸素の接続
支援の方法	・ 本児専用のエリアを作り他児が入れないようにした。 ・ キーパーソンとなる職員をつくった。 ・ 看護職員の配置がなかったため訪問看護をいれて連携した。	・ 登園時に合わせて施設へ訪問し両親からの申し送りを受ける。 ・ 医療的ケアの実施
工夫した点	・ 酸素吸入をしていても受け入れできるように工夫した。	・ 医療連携を始めるにあたりまずご家庭へ訪問し日常の生活の様子や信頼関係を築くところから開始した。 ・ 事業所スタッフは酸素の取り扱いをしたことがないため、業者に依頼し勉強会を開催した。

● 今後の課題やアドバイス

	さくらキッズ	訪問看護事業所 LUNA
同じ支援を行う 支援者への アドバイス	看護職員がいなくともケースによってはサービスの組み合わせ、連携により受け入れができると思います。	・ 医療的ケア実施はもちろんですが対象者がいかにその場所で安心して安全に過ごすために事業所との関係が重要です。 ・ 児童発達支援事業所の職員の方とコミュニケーションを図り、協調しながら実施できればとよいと思います。

● ご家族からの声

感想等	保育園での受け入れが不可とわかったときは、とにかく困惑しました。仕事が続けられなかったらどうしよう、また、なぜ保育園に通えないのだろうと複雑な気持ちでした。 そんな中、やっほ WEST の仲介で、さくらキッズさんを紹介いただき、息子を快く受け入れてくださったスタッフの方々、そして訪問看護の方々には感謝してもしきれない思いです。 医療連携体制で対応していただき、毎回子供の体調チェックをしてもらいつつ、安全な環境で支援してもらえるので本当に感謝しています。
支援を通じて得られた子どもや家族の変化	さくらさんに色々な遊び場へ連れて行っていただき、沢山身体を動かしているおかげで運動能力が上がっていると感じますし、体力もついていると思います。自由に遊ばせてもらったことで筋力もついたと思います 事業所内での活動によって手先や頭の運動にもなっているように思います。普段の生活ではなかなか取り組めない指先・手先を使ったトレーニングなどを行っていただき、子ども自身でできる作業がたくさん増えました。 スタッフの方々と沢山お話しているので言語力やコミュニケーション能力も高まっているように感じます。 親として息子の日々の成長を感じられてとても嬉しいです。 そして支援のおかげで、自身の仕事復帰が叶ったのは本当に大きいです。親としても安心して仕事へ向かう事ができます。
同じ経験をしている家族へ伝えたいこと等	まずは保育園で預かってもらえる環境を切に願っています。 また、私の場合は相談支援センターの方に全てお任せしてしまったのですが、もう少し自分で情報を入手する努力をするべきだったかなと思うので、早いうちから動く事を意識すると良いかと思います。

